

消防千葉

2012 No.513 平成24年8月号

平成24年8月1日 編集兼発行人
千葉市中央区仁戸名町666番地2 千葉県消防会館内
公益財団法人千葉県消防協会会長 石橋 毅
TEL043(263)9885
郵便番号 260-0801 (定価50円)
ホームページ <http://business4.plala.or.jp/chisyo/>
メールアドレス chisyokai@bz04.plala.or.jp



しょうとうざん にちほんじ
『正東山日本寺』香取郡多古町(香取支部)

●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●●
巻 頭 言

「技術の継承」

●●●●●●●● ●●●●●●●● ●●●●●●●●
匝瑳市横芝光町消防組合 消防長 秋葉 辰男

匝瑳市横芝光町消防組合は、前身であります八日市場市外三町消防組合が昭和45年10月、更にその前身であります八日市場市消防本部が常設消防として誕生したのが昭和41年4月のことでした。

以来、平成18年3月の構成市町の合併により難読地名で東の横綱といわれている匝瑳市(そうさし)と横芝光町を構成市町とする消防組合に名称変更し、今日に至っております。

当消防組合は、千葉県立九十九里自然公園のほぼ中央に位置しており、中心部に国道126号線及びJR総武本線が走り、その南側は平坦な地形で水田及び畑地が白砂青松の九十九里海岸まで続き、北側は、なだらかな丘陵地帯である北総台地が広がっております。東に旭市、北に香取市、多古町、西は芝山町、山武市に接しており、管轄面積は、168.69km²で、人口約6万5千人を2署1分署、消防車両17台、職員109人の組織体制で地域住民の安心・安全のため、日夜消防行政に臨んでおります。

平成23年3月11日に発生した、東日本大震災は、当管内においては、幸いにして人的被害等はありませんでしたが、これまで我々消防職員が経験したことがない地震・津波・原子力災害という大規模広域複合災害であり、消防・警察・自衛隊・行政が一体となり連携しての活動となりました。

このような大規模災害が発生した際には、我々消防を始め行政で全ての事例に迅速に対応することが困難である一方、日々の避難訓練指導が多くの人命を救った事例があり、我々も避難訓練及び広報等を積極的に行い、いつ起こるか分からない災害への備えの重要性が改めて思い知らされた災害でもありました。

当消防組合ではここ数年、技術・経験豊かな職員が数多く定年を迎えられ、新規採用者を採用し職員の世代交代が急速に進んでいる状況であります。東日本大震災の際には、経験豊富な職員の指揮により、管内被害の状況把握、早期の災害対応体制を確立することが出来たところであります。技術経験を次の世代に引き継ぐことは、地域住民の消防に対する期待に応えることにも繋がるため、当消防組合としても、経験不足や技術の未熟による消防業務の停滞を防ぐため、日々の訓練の中で、技術・経験を経験の浅い職員へ伝承し、実際の災害現場に柔軟に対応できる対応力を備えることを重点に日々の消防業務に取り組んでおります。

消防を取り巻く環境は、今まさに変化の流れの中に置かれており、消防救急無線のデジタル化事業を初め、ちば消防救急共同指令センターの運用の開始に伴う職員の派遣、各消防本部での指揮隊の運用開始、東日本大震災を教訓とする大規模災害への対応等多くの課題に取り組んでいる状況であります。

自己研鑽のみならず、消防の業務は、小隊、中隊、大隊とチームで行うことが大半であるため、組織力の向上のため職員が一丸となって職務精励することが肝要であり、震災以降、住民の消防への活動の関心の高まりに応えるため、消防体制の強化に努めてまいります。

第48回市町村消防長・消防団長会議の開催

第48回市町村消防長・消防団長会議が鴨川市のホテル三日月で、県下各市町村から消防局長、消防長と各市町村の消防団長等約150名の出席により7月12日・13日の2日に亘って開催されました。

12日の14時から本年度に新たに就任した消防(局)長、消防団長29名の紹介、芝岸消防協会副会長の開会の言葉で始まり、石橋千葉県消防協会長の挨拶、日本消防協会長(代理富岡日消福祉部長)の来賓祝辞、倉田協会最高名誉顧問の祝電の披露がなされた後、石橋協会長の議長により千葉県消防協会、千葉県防災危機管理部、



挨拶する石橋消防協会長

千葉県消防学校から24年度の事業計画や訓練計画、行事予定や災害・火災の状況等の提出事項の審議、日本消防協会の各共済事業等の説明がなされました。



富岡日消福祉部長の祝辞



森田千葉県知事の祝辞



15時過ぎ、森田千葉県知事から「日頃の消防防災に係る労苦に感謝するとともに地域の安心・安全のために一層努めて欲しい」との来賓あいさつが行われ、その後、独立行政法人 産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター 海溝型地震履歴研究チーム長 宍倉正展氏による「房総における巨大地震と津波の想定」と題する講演が行われました。

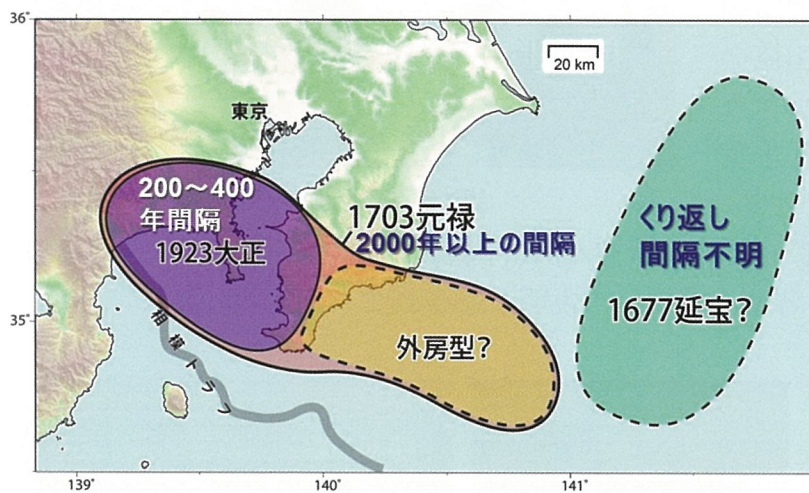
宍倉講師は、千葉県大多喜町生まれで千葉大大学院博士課程を修了後、通産省工業技術院地質調査所に入所、2009年より現職で、海溝型地震の履歴にかかわる地形、



講演する宍倉講師

地質の調査研究に従事し、関東の地震の履歴を詳しく調査しており、地震に関する著作も多数著しておられます。

講演では、「地震などの自然現象はある程度のサイクルをもって繰り返し起こっていることから、古文書類から地震に関する諸現象を読み解いたり、地形や地層から地震や地盤の隆起・沈降、液状化の痕跡を検出して、その年代や規模を明らかにし、津波堆積物を詳しく調査することにより、地震や津波の発生や規模の将来予測が可能になること。



房総沖の地震としては1677年に発生した延宝型地震と外房型地震が挙げられるが、いつ起きるかはわからないので、いつ起きても良いように、自分たちのいる場所の標高や海岸からの距離、地盤の状況などの情報を知り、避難経路などの事前確認が重要で、津波警報を聞いたらすぐ

に避難することである。」と述べられ、大変有意義な講演でありました。

夜には、石渡副知事、吉田防災危機管理部長、齊藤前県議、亀田県議、片桐鴨川市長等の出席を得て交流会が盛大に行われました。



石橋消防協会長



石渡千葉県副知事



片桐鴨川市長

第48回千葉県消防操法大会の開催

(平成24年7月28日、於 千葉県消防学校)

千葉県と(公財)千葉県消防協会が主催(後援(財)日本消防協会)する第48回千葉県消防操法大会が、7月28日(土)梅雨明けの暑い天気の中、千葉県消防学校において盛大に開催されました。

昨年は東日本大震災の影響で中止となり2年ぶりの開催となった同大会には県内の消防関係者や応援の家族等を含め約2,000名が参加、県内の各支部(10支部)から厳しい予選を勝ち抜いてきた、ポンプ車操法の部12チーム、小型ポンプ操法の部12チームが出場して日頃の訓練の成果を競い合い、消防操法技術の向上と士気高揚を図りました。



出場団の入場



会場の消防学校のグラウンドには、各出場チームのテントが立ち並び、必勝祈願の幟旗が翻って、応援団も盛り上がっていました。

午前9時に開会式が始まり、出場団員の入場行進、小田山東葛飾支部長の総指揮者宣言による整列の後、芝岸協会副会長の開会のことば、大会名誉会長森田健作千葉県知事、大会会長石橋 毅千葉県消防協会会長から挨拶がありました。

消防庁長官や川名県議会議長等からの来賓祝辞の後、我孫子市消防団洞毛克敏指揮者から出場団員代表宣誓が行われ、消防操法の競技が開始されました。

各消防団から持ち込まれたポンプ車及び小型ポンプによる操法競技が開始され、各消防局、消防本部から選抜された審査員が厳しく審査する中、各チームの指揮者の力強い号



森田千葉県知事



石橋消防協会会長

令のもと、きびきびとした動きで、技の速さ、正確さを競い合い、会場からはそれぞれ自分の団のチームに対し、盛大な歓声が上がっていました。

競技終了後、休憩時にはアトラクションとして市川市消防音楽隊による演奏が行われました。



出場団員代表宣誓



ポンプ車操法の部表彰



小型ポンプ操法の部表彰

審査の結果は、今関達夫審査長(千葉県消防学校長)から発表され、それぞれ団体の部、個人の部で栄えある受賞をされました。

なお、ポンプ車操法の部で最優秀賞となった君津市消防団は、来る10月7日(日)に東京都江東区有明で行われる第23回全国消防操法大会に千葉県代表として出場します。

成績の一覧は下表のとおりです。

★団体の部 成績★

ポンプ車操法の部		小型ポンプ操法の部	
順位	消防団名	順位	消防団名
最優秀賞	君津市消防団	最優秀賞	大網白里町消防団
優秀賞	いすみ市消防団	優秀賞	八街市消防団
優良賞	浦安市消防団	優良賞	大多喜町消防団
努力賞	九十九里町消防団	努力賞	富津市消防団
〃	館山市消防団	〃	柏市消防団
〃	富里市消防団	〃	南房総市消防団
〃	習志野市消防団	〃	我孫子市消防団
〃	匝瑳市消防団	〃	市原市消防団
〃	市川市消防団	〃	旭市消防団
〃	八街市消防団	〃	印西市消防団
〃	長生郡市広域市町村圏組合消防団	〃	長生郡市広域市町村圏組合消防団
〃	香取市消防団	〃	神崎町消防団



審査員



市川市消防音楽隊の演奏

★個人の部 成績★

ポンプ車操法の部			小型ポンプ操法の部		
順位	消防団名	氏名	順位	消防団名	氏名
最優秀指揮者	九十九里町消防団	鶴岡 正芳	最優秀指揮者	八街市消防団	瀬山 浩邦
最優秀1番員	いすみ市消防団	鈴木 優舞	最優秀1番員	大網白里町消防団	四之宮 正明
最優秀2番員	匝瑳市消防団	古作 考司	最優秀2番員	柏市消防団	松山 孝史
最優秀3番員	浦安市消防団	作田 理	最優秀3番員	大多喜町消防団	菅野 真一
最優秀4番員	君津市消防団	豊島 一樹			



出場団員宣誓



総指揮者と出場団員



操法演技前の円陣



ポンプ車操法の部の消防操法



最優秀操作員(ポンプ車)



小型ポンプの部の消防操法



最優秀操作員(小型ポンプ)



万歳三唱

第41回消防救助技術関東地区指導会 千葉県消防長会

平成24年7月6日(金)東京都において、一般財団法人全国消防協会関東地区支部主催による第41回消防救助技術関東地区指導会が開催されました。

この指導会には、1都9県(196消防本部)から選抜された635名の隊員が、陸上の部4種目(連携訓練3種目、技術訓練1種目)と水上の部7種目(基礎訓練2種目、連携訓練5種目)に出場し、来る8月7日(火)同会場で開催される第41回全国消防救助技術大会出場を目指し、日頃鍛えた救助技術を競い合いました。

千葉県からは、陸上の部3種目と水上の部7種目に合計91名の隊員が出場し、応援に駆け付けた皆様からの大声援を受け、県代表としての訓練成果を発揮いたしました。

《開会式》



《関東地区指導会結果により全国大会へ出場する隊員等》

【陸上の部】

◎ 引揚救助訓練(2人が塔上から降下し、塔下の要救助者を救出する訓練)

- ・千葉市 山野祐三 石井紀光 竹内達也 伊藤祐樹 本多恭介
- ・浦安市 安藤俊吾 和田将司 宇田川佳孝 田畑健太 松野公博



◎ 障害突破訓練(5箇所の障害を突破する訓練)

- ・千葉市 椎名啓太郎 鈴木隆文 遠藤真哉 染谷直志 吉野和也
- ・流山市 遠藤勉 菅裕樹 安部雄一 知久隼人 熊谷龍之介

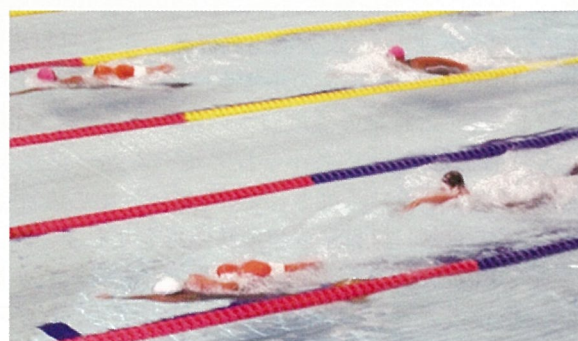
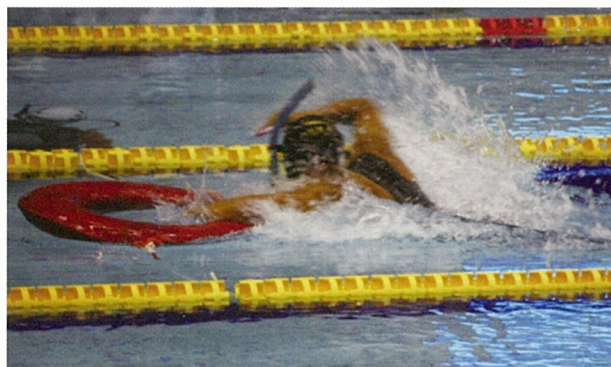


【水上の部】

◎ 複合検索訓練

(スノーケリングで障害物を突破しながら、水中のリングを検索する訓練)

- ・市川市 鳥家吉高



6・7月号で紹介しました千葉県大会結果で全国大会へ出場される隊員とともに、関東地区指導会結果により関東地区代表として全国大会に出場する隊員のご活躍を期待いたします。

我が町の消防団

浦安市消防団

浦安市は、東京湾の奥部に位置し、西は旧江戸川を隔てて東京都江戸川区と対峙し、北は市川市と接していません。

その面積は16.98km²で、平成24年6月末現在の人口は162,630人、世帯数は72,243世帯となっています。

本市の消防団は、平成24年4月1日現在、平林団長以下153名(内消防団支援隊58名、女性消防団員21名)の3個分団で構成されており、9台の消防ポンプ自動車(CD-I型)を配備し活動をしています。

全国的に消防団員の確保が困難な中、本市の消防団につきましても、年々消防団員のサラリーマン化が進み、団員の確保が大変困難な状況で、一時は条例定員の半数以下まで落ち込むことになりました。



これを解決するために、消防団を平成元年～8年に退団した40歳代のOB団員113名を対象に説明会を開催し、再入団のお願いをしたところ、58名のOB団員の方に入団の承諾をいただき、平成23年4月1日より消防団支援隊を発足いたしました。

また、これまでの消防団は男性中心で組織されていましたが、男女が均等に活躍し、その能力が発揮される新時代に即した新しい消防団が求められており、平成15年11月には、21名により本市初の女性消防団員(本部付)が誕生しております。

消防団員の活動は、災害に直接対処するだけでなく、高齢者や地域社会に対する火災予防活動や応急手当の普及指導、

災害時の後方支援活動等も重要な活動の一つになっていることから、地域社会における女性の力を活用し、消防団をさらに充実していきたいと考えております。

現在、男性消防団員は伝統を受け継ぎながら、実践訓練並びに操法訓練などを定期的を実施するとともに、火災出動をはじめ警戒出動などを行い、本市の安全・安心を担っています。平成22年7月24日に開催されました、第46回千葉県消防操法大会に第二分団が出場し、本市で2度目の最優秀賞を受賞しました。



女性消防団員の主な活動につきましては、現在21名のうち19名が普通救命指導員資格を取得し、市民団体などに、平成23年度は47回の普通救命講習会の指導を行いました。また、市内に配置している自主防災組織への可搬動力ポンプの操作、訓練指導の実施や火災予防の啓発活動を実施しております。平成21年10月22日には、横浜市で開催された第19回全国女性消防操法大会に千葉県代表として出場し、優良賞(9位)の成績を収めました。消防団支援隊の活動内容につきましては、火災出動は基より、各種災害時においても現場活動を行っております。

平成24年度からは、地域の小学生に防火・防災に関する知識と関心を持ち、将来の地域防災の担い手として成長することを目的として、市内各小学校とホームページ等を通じて小学5年生を対象に募集を行い、男女合わせて46名の応募があり、平成24年4月1日に少年消防団を発足しました。少年消防団の年間活動といたしましては、規律訓練、放水訓練、救助訓練、市外研修、救命学習、防火・防災学習、火災予防啓発及び消防出初式の参加を予定しております。将来、少年消防団の卒団者から消防団への入団も期待しております。



今後も、震災や水害など『災害に強いまち』をめざして、震災対策の推進、消防体制の確立など、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

我が町の消防団

勝浦市消防団

全国でも有数のカツオ水揚げ量を誇る勝浦市は、房総半島の南東に位置し、面積は94.20 km²を有します。太平洋を望む海岸線は、自然美あふれるリアス式海岸で形成され、緑豊かな山間部とのコントラストが美しく、四季折々の景観が楽しめます。



また、『快水浴場百選』『日本の渚・百選』に選ばれた守谷海岸においては、日常を忘れ、ゆっくりとした時間を過ごすことができ、年間を通じて楽しむことのできるおすすめスポットです。

その他、石川県の輪島、岐阜県の高山と並ぶ日本3大朝市として有名な勝浦朝市は、天正時代から400年以上に渡る歴史を誇る勝浦のシンボリックな存在であり、観光客だけではなく、今なお地元の方々の台所として大いに親しまれています。

また、近年はイベントにも力を注いでおり、春には全国勝浦ネットワークの縁により徳島県勝浦町よりひな人形を譲り受けたことをきっかけに始まった「かつうらビッグひな祭り」、毎年6月上旬に開催している「勝浦湾カツオ祭り」等々、シーズンにかたよる事なく、魅力あふれる観光都市をPRしており、毎年多くの観光客に來訪いただいています。

ごく最近では、地元活性化のため、当市消防団の班長が船団長として率いる勝浦タンタンメン船団にも多数の若手消防団員が在籍し、勝浦を盛り上げようと奮闘しています。昨年行われたB-1グランプリでは勝浦式タンタンメンが初出典ながら関東大会でシルバーグランプリ、全国大会では7位入賞を果たし、全国に勝浦市をアピールすることができました。

このような地元愛に溢れた消防団員419名を束ねる中村消防団長のモットーは、『和やかな消防団』。日頃から団員には、「地域消防防災のために精進するなかにも、平時には楽しみがないといけない。お互いに交流し、絆を深めていくことが大切である。」と言っておられます。そんな中村消防団長就任以来、災害時や訓練などにおいて、ケガ人が1人も出ていないのは、団長の人柄のおかげではないでしょうか。

日々の消防団活動としましては、火災予防週間、歳末特別警戒や気象警報発表時のパトロール警戒だけでなく、平時より風が強い日に夜間パトロールを積極的に行うなど地域住民の安全、安心を守るため、日夜熱心に活動しているほか、昨年より地域が主体となって行っている東日本大震災を教訓とした防災訓練にも積極的に協力をするなど、自主防災組織や地区役員と共に地域に根ざした献身的な活動を行っています。

また、全国的に問題となっている消防団員の減少、高齢化などに関して、勉強会を開催したり、女性消防団員の加入を推進し、女性ならではの目線を取り入れるなど、今まで以上に幅広い消防団活動を展開しようと考えており、将来的には女性消防隊の結成や組織の機動力アップなどを視野に入れた組織造りについても検討しているところです。

我々勝浦市消防団は、今後も先輩諸氏より受け継いだ伝統を守りつつ歴史ある美しい勝浦を守るために団をあげて邁進していきたいと考えております。

お近くにお越しの際はぜひ、勝浦の郷土料理と勝浦式タンタンメンをご賞味されてはいかがでしょうか。



東 西 南 北

千葉都市モノレール新型車両でモノレール事故対応訓練 千葉市消防局

千葉市稲毛消防署では、平成24年7月2日(月)・3日(火)に千葉都市モノレール株式会社と合同で、新型車両の「モノレール事故発生時の対応訓練」を実施しました。

当市の都市モノレールは全国でもめずらしい懸垂型でその特殊性から故障や事故、自然災害により駅間(空中)に停車して動けなくなった場合、容易に乗客を地上へ避難させることが困難であることから、梯子車による救出訓練等を実施しました。

今回の訓練により、モノレール車両に対しての知識や救出方法等を習熟し、不測発災時の消防対応の更なる確立が図られました。



銚子市機能別消防団の発足 銚子市消防団

銚子市消防団(芝岸弘消防団長)では、東日本大震災を教訓に、今後、発生が懸念される首都直下地震などの大規模災害発生時や、消防団員の被雇用化により、人員確保が難しい平日の日中に発生した火災への対応強化を図るため、「銚子市機能別消防団」を発足しました。

平成24年7月4日(水)に銚子市勤労コミュニティセンターで行われた発足式で、機能別消防団員に任命されたのは、災害支援隊33人と後方支援隊27人の計60人。災害支援隊は、消防団OBで構成され、主に平日の日中に発生した火災現場での消火活動を支援します。

大学生と女性で構成された後方支援隊は、火災発生時の交通整理や大規模災害時における住民の避難誘導などにあたります。



災害支援隊(消防団OB)



後方支援隊(大学生・女性)

水難救助訓練の実施

市川市消防局

市川市消防局(和田 照男局長)では、本行徳28番地、常夜灯公園及び緊急船着場付近旧江戸川にて、7月12日(木)～7月13日(金)の2日間で水難救助訓練を実施しました。

この訓練は、夏のレジャーシーズンを前に、発生することが危惧される水難事故に対する安全確実な救助技術の向上と習得、陸上隊と水難救助隊の連携活動を円滑に行うことを目的としています。

参加した職員は、本番さながらに、真剣に訓練に取り組んでいました。



緊急出動に備え野営訓練の実施

流山市消防本部

流山市東消防署では、7月13日(金)から14日(土)の2日間にわたり、東消防署訓練場で野営訓練を実施しました。

東日本大震災では、当市も緊急消防援助隊として出動し多くの貴重な体験や教訓を得ましたので、訓練を通して後輩職員に伝えるために実施しました。

当日は、ガレキからの救出訓練や夜間におけるエアートント設営訓練、救助想定訓練を実施し、いつでも、どんな時でも行える迅速確実な行動確認を行いました。

また、訓練後は、エアートントの中で先輩職員の体験談を聞きながら相互のコミュニケーションを図ることが出来、結束感を高めました。



日々の動き

防災危機管理部
消防協会 共同編集

平成24年8月23日 平成24年度防火防災ポスター展表彰式(千葉市)



平成22年度防火ポスター展知事表彰最優秀賞作品

平成24年度全国統一防火標語
「消すまでは 出ない行かない 離れない」

〈表紙の説明〉

「正東山(しょうとうざん)日本寺(にっぽんじ)」 香取郡多古町(香取支部)

日本寺は、元応元年(1319)に中山法華経寺の初祖日常が開基、三世日祐が開山した北総一円の日蓮宗布教の拠点となる寺です。晩年の日常の隠棲寺であり、宗祖日蓮聖人と互いに相手の像を刻んだ宗宝「交互の御影」(みたがいのみえい)が今に伝わっております。

また、日蓮宗の僧侶の学問所(檀林)のあった寺(中村檀林)として有名で、慶長4年(1599)の開講から明治8年の廃檀まで275年の長きにわたり続きました。隆盛期には、全国から千人近い学僧が集まり、数十棟の学坊が軒を連ねていました。町指定文化財の鐘楼や本阿弥光悦書の扁額がかかる山門等が当時の面影を伝えています。

境内には檀林の歴史と学僧を偲び、およそ8000株のアジサイが植えられ「あじさい寺」としても有名です。



訂正のお詫びとお知らせ

6・7月号の6ページ、平成24年度消防(局)長の表中「我孫子市消防本部の消防長氏名」が「藤根 勤」となっておりますが、正しくは「藤根 勉」ですのでお詫びして訂正します。